



2025年10月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社エイチ・アイ・エス
2025年 6月13日
東証プライム：9603

目次

1. 決算概要
2. 業績予想と下半期の主な取り組み
3. 補足資料



決算概要

連結業績サマリ



売上高は、**旅行事業が順調に回復**したこと、全てのセグメントで前年を上回り、**ほぼ計画通りで着地**

営業利益は、**海外における旅行事業の回復と、国内におけるホテル事業が好調に推移**し、**計画より上振れ**

(百万円)	FY24 2Q	FY25 2Q	YoY	前期差	計画差	主な前期差増減
売上高	160,930	181,313	112.7%	+20,383	△1,687	旅行+18,194、ホテル+937
売上総利益	53,242	59,149	111.1%	+5,907		
販売費及び一般管理費	47,713	52,428	109.9%	+4,714		
営業利益	5,529	6,721	121.6%	+1,192	+621	旅行+892、九産交+214
EBITDA	11,106	12,331	111.0%	+1,225		
営業外収益	1,839	2,376	129.2%	+536		
営業外費用	1,527	2,215	145.0%	+688		
経常利益	5,840	6,881	117.8%	+1,041	+781	
特別利益	666	265	39.9%	△400		
特別損失	385	553	143.6%	+168		
税引前利益	6,121	6,593	107.7%	+472		
法人税等	1,832	2,064	112.7%	+232		
非支配株主に帰属する 中間期純利益	640	730	114.0%	+89		
親会社株主に帰属する 中間期純利益	3,648	3,798	104.1%	+150	△302	

連結P/L 四半期

HIS

	FY24					FY25				
(百万円)	1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
売上高	80,279	80,650	76,407	105,996	343,334	93,333	87,980			
YoY	173.6%	142.1%	125.1%	120.3%	136.1%	116.3%	109.1%			
売上原価	53,698	53,989	51,637	73,391	232,716	62,494	59,670			
売上総利益	26,580	26,661	24,769	32,605	110,617	30,839	28,310			
YoY	177.0%	137.8%	119.9%	116.2%	133.1%	116.0%	106.2%			
販管費	23,347	24,365	25,097	26,952	99,762	25,629	26,798			
YoY	123.7%	129.8%	117.5%	120.1%	122.5%	109.8%	110.0%			
営業利益	3,233	2,295	△327	5,652	10,854	5,209	1,511			
YoY	-	397.7%	-	100.7%	663.8%	161.1%	65.8%			
営業利益率	4.0%	2.8%	-	5.3%	3.2%	5.6%	1.7%			
EBITDA	6,033	5,072	2,524	8,571	22,202	7,944	4,387			
営業外収益	604	1,234	436	879	3,154	1,043	1,333			
営業外費用	682	845	739	1,290	3,557	982	1,233			
経常利益	3,155	2,685	△630	5,241	10,451	5,270	1,611			
YoY	-	359.1%	-	97.0%	634.7%	167.0%	60.0%			
当期純利益	2,373	1,275	△68	5,137	8,717	3,514	284			
YoY	-	-	-	154.4%	-	148.1%	22.3%			

セグメント業績



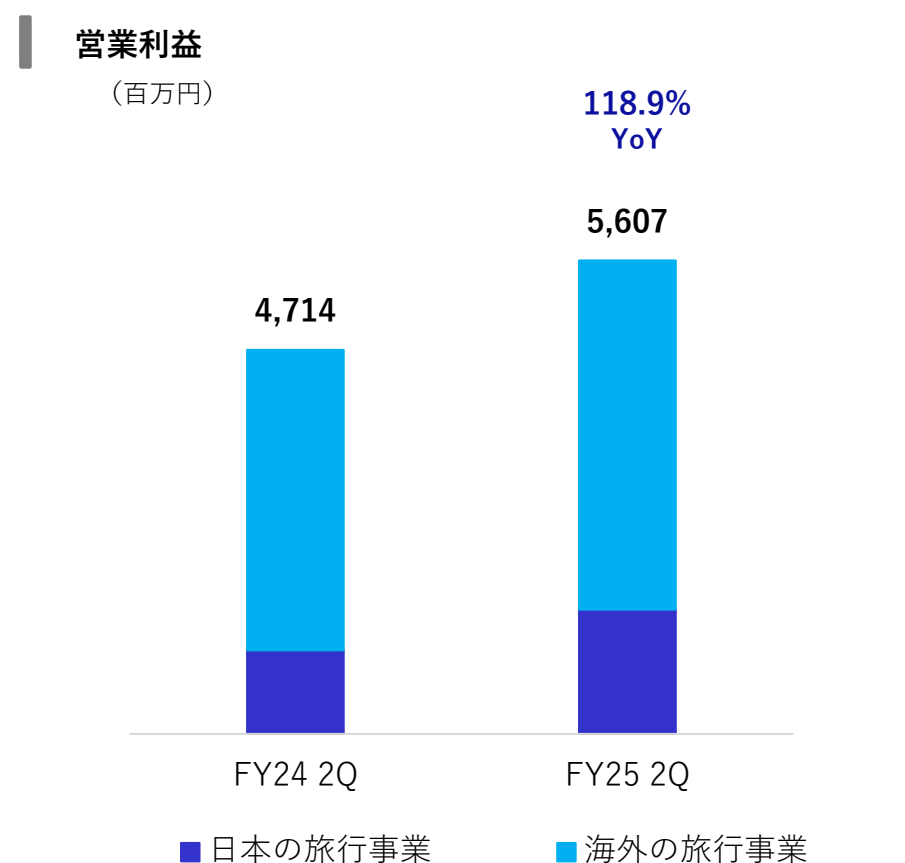
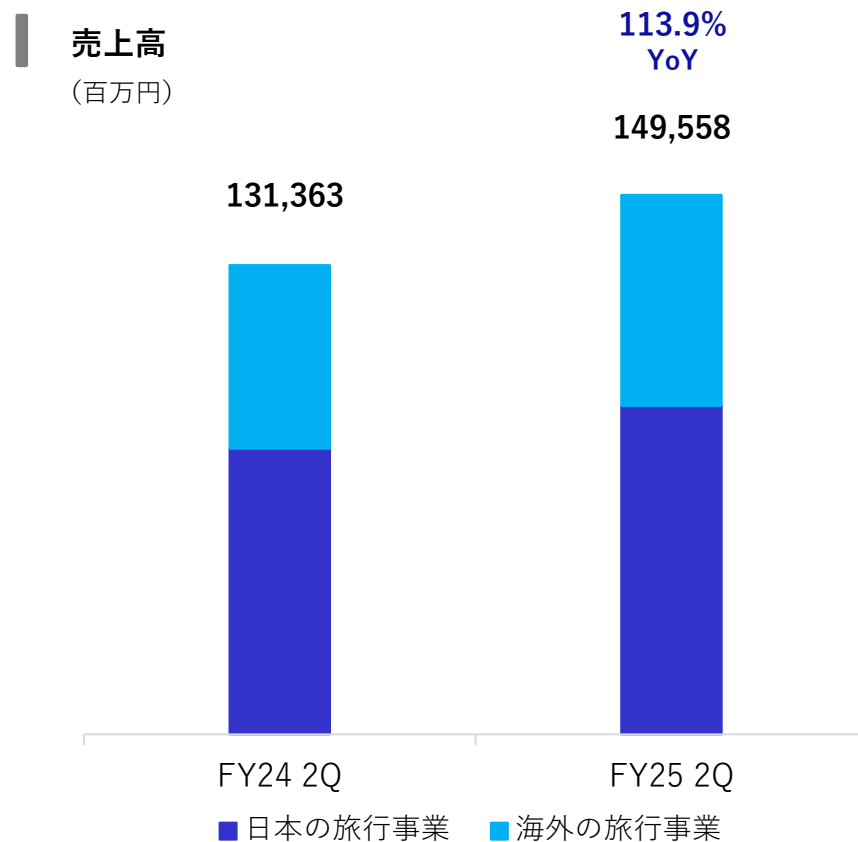
(百万円)		FY24 2Q	FY25 2Q	YoY	前期差
売上高	旅行事業	131,363	149,558	113.9%	+18,194
	ホテル事業	11,468	12,405	108.2%	+937
	九州産交グループ	11,957	12,663	105.9%	+705
	その他	7,620	8,814	115.7%	+1,194
	調整・消去等	△1,479	△2,128	-	△648
	計	160,930	181,313	112.7%	+20,383
営業利益	旅行事業	4,714	5,607	118.9%	+892
	ホテル事業	1,771	1,920	108.4%	+148
	九州産交グループ	293	508	173.3%	+214
	その他	105	219	207.6%	+113
	調整・消去等	△1,356	△1,534	-	△177
	計	5,529	6,721	121.6%	+1,192
EBITDA	旅行事業	6,820	7,696	112.8%	+875
	ホテル事業	3,783	3,911	103.4%	+127
	九州産交グループ	1,170	1,350	115.4%	+179
	その他	383	507	132.3%	+123
	調整・消去等	△1,052	△1,134	-	△81
	計	11,106	12,331	111.0%	+1,225

セグメントP/L 四半期

HIS

(百万円)		FY24					FY25				
		1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
旅行	売上高	65,578	65,785	62,826	89,782	283,972	77,355	72,203			
	YoY	189.3%	145.8%	127.8%	122.3%	140.3%	118.0%	109.8%			
	営業利益	2,373	2,341	△372	4,959	9,302	4,051	1,556			
	YoY	-	1132.7%	-	99.7%	811.8%	170.7%	66.5%			
ホテル	売上高	5,811	5,657	5,717	5,803	22,989	6,532	5,872			
	YoY	144.5%	134.6%	122.5%	115.1%	128.2%	112.4%	103.8%			
	営業利益	1,035	735	847	428	3,047	1,242	677			
	YoY	-	765.1%	408.1%	134.0%	527.5%	120.0%	92.0%			
九産交 グループ	売上高	6,002	5,954	5,964	6,063	23,985	6,539	6,124			
	YoY	109.4%	113.4%	111.6%	108.4%	110.7%	108.9%	102.8%			
	営業利益	230	62	59	82	434	327	180			
	YoY	702.9%	83.7%	-	1269.1%	749.6%	141.9%	289.6%			
その他	売上高	3,610	4,009	3,030	5,202	15,853	4,074	4,740			
	YoY	148.0%	151.7%	126.3%	115.4%	132.2%	112.8%	118.2%			
	営業利益	119	△13	△190	304	219	212	7			
	YoY	-	-	-	43.1%	58.9%	177.9%	-			

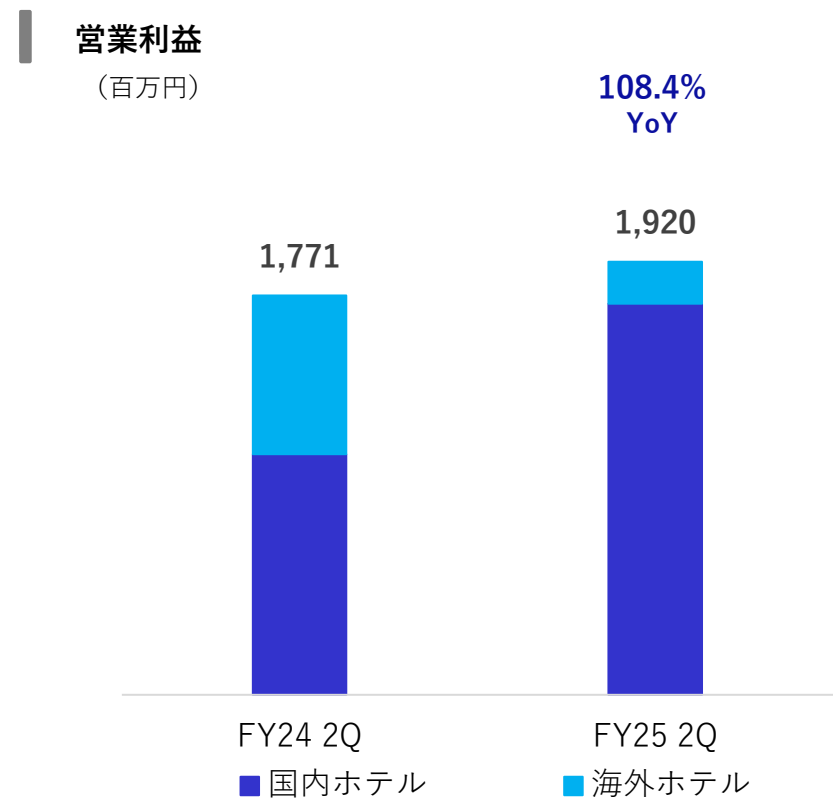
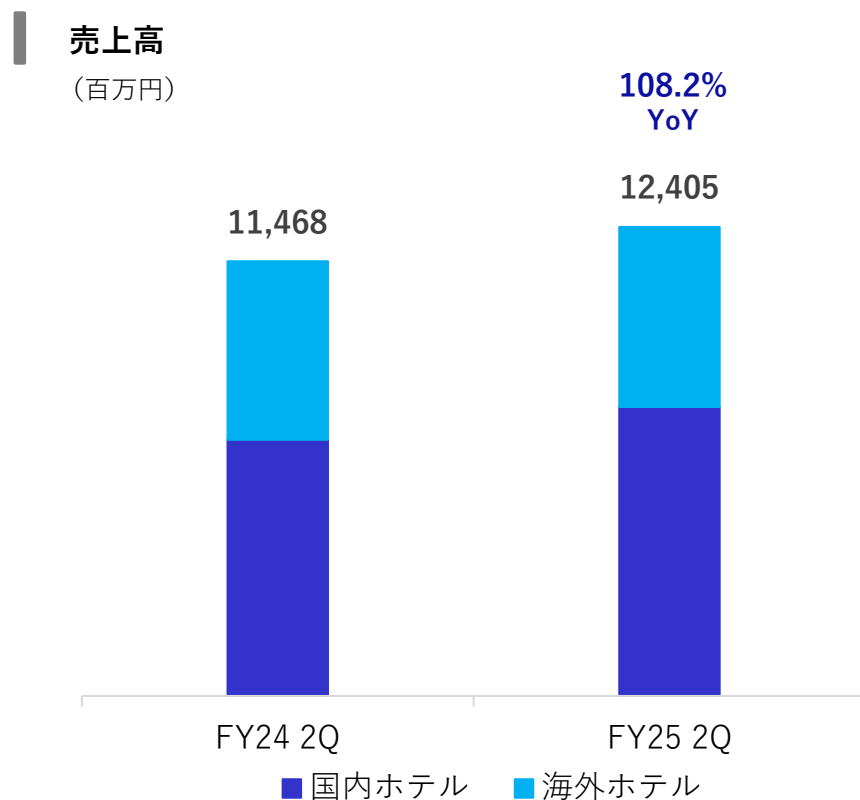
- 添乗員付きツアーや海外航空券とホテル手配の新ブランド「AirZ」の販売強化により、年末年始・春休みの集客が奏功し、日本発海外旅行が売上を牽引
- 海外法人の繁忙期となる第1四半期で、日本人および第3国間の旅行需要を捉えヨーロッパ・東南アジア・ハワイのインバウンド事業を中心に利益を牽引



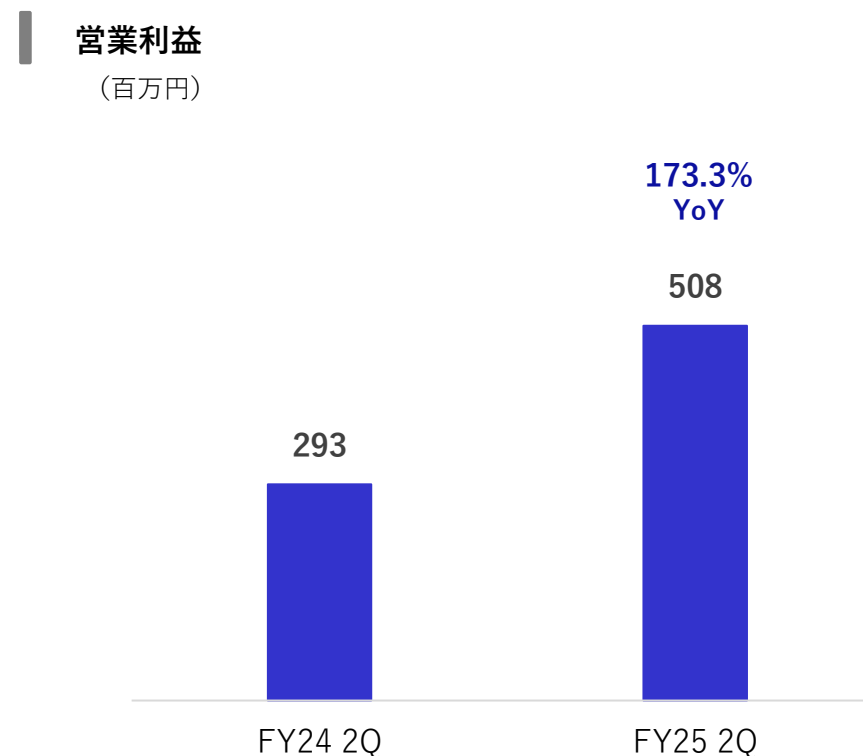
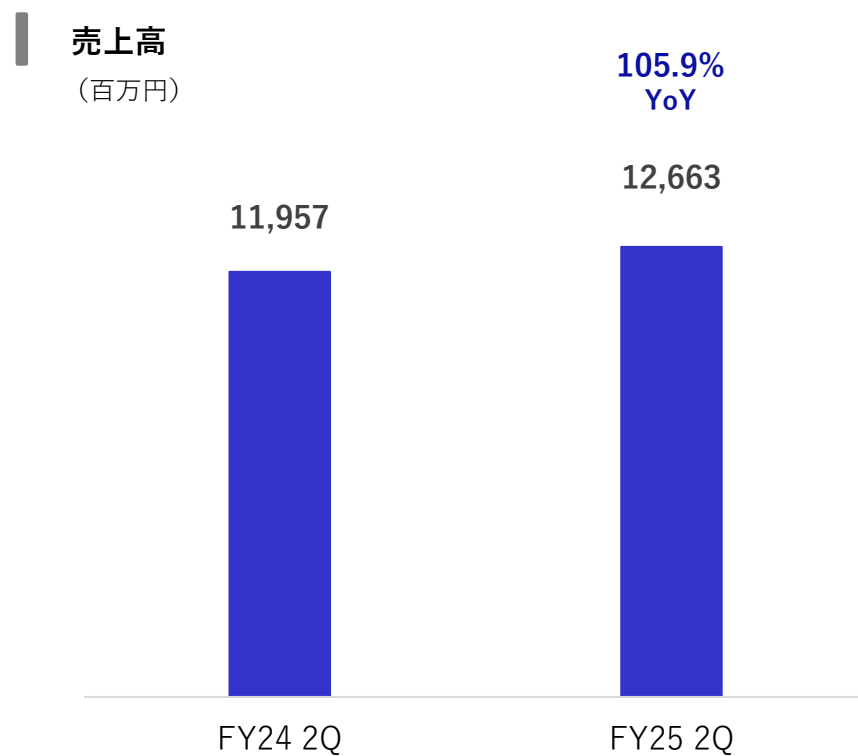
※本社経費調整前

国内のホテルが、訪日の受客を中心に**高稼働が継続し、客室単価の上昇**にも繋がったとともに、日本人による観光需要も増加し、**売上高・営業利益を牽引**

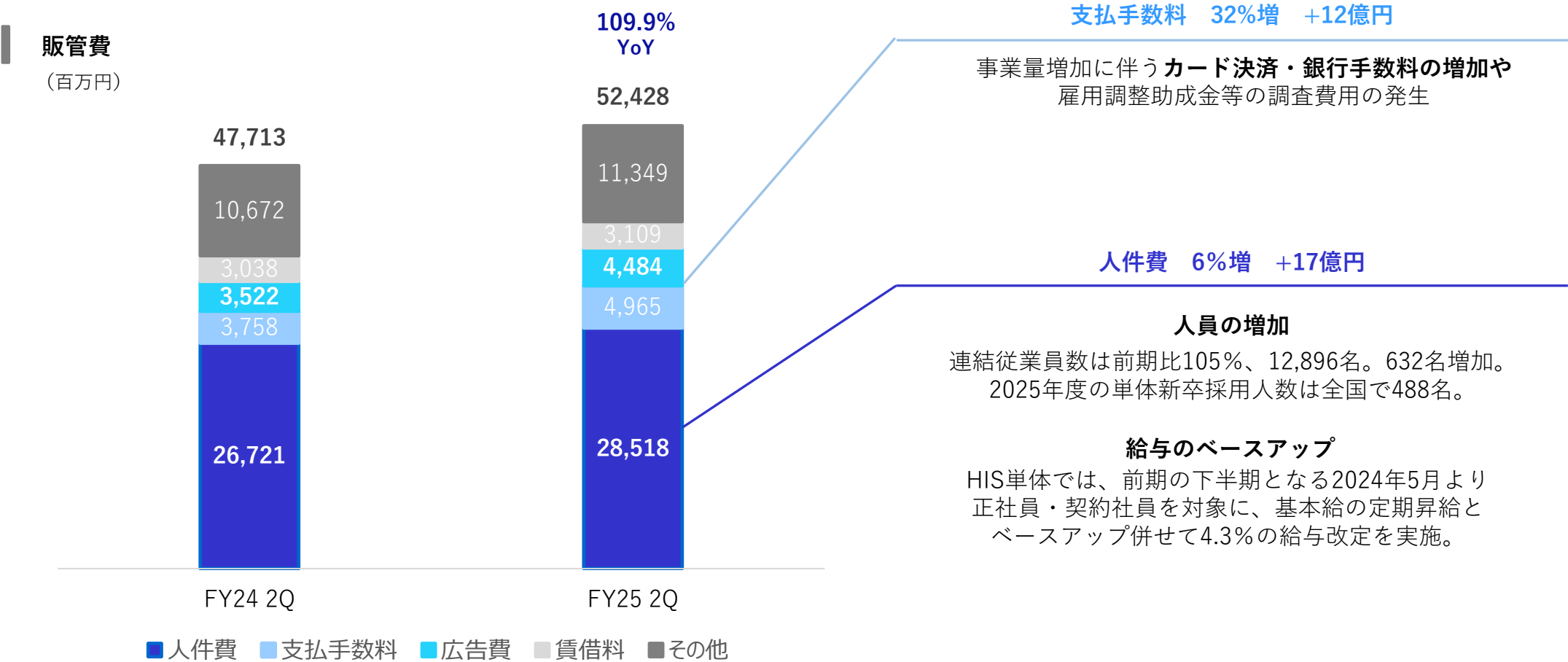
海外のホテルでは、**台湾とニューヨークが堅調**であったものの、グアムの観光需要の遅れや**トルコの開業コストの先行投資**により**利益が減少**



- 訪日需要やTSMCの進出効果などにより人流が活性化したことで、**バス事業全般、航空代理店業、飲食・物販事業が好調**に推移
- バスの関係諸費や人件費や光熱費などの費用増加はあったものの、リース料やその他、修繕費等の**経費圧縮と粗利増加により増収増益**



旅行需要の回復に伴い支払手数料や広告費が増加したほか、人員増の影響などにより人件費が増加。



連結B/S 前期末比



(百万円)	FY24	FY25 2Q	増減
現金及び預金	138,145	104,392	△33,753
受取手形、売掛金 及び契約資産	25,413	23,284	△2,128
営業未収入金	670	764	93
旅行前払金	10,942	12,867	1,924
その他	27,145	26,157	△987
流動資産計	202,316	167,466	△34,850
有形固定資産	164,104	162,313	△1,791
無形固定資産	13,975	13,742	△233
のれん	1,956	1,763	△192
投資その他資産	29,789	29,622	△166
固定資産計	209,825	207,441	△2,383
繰延資産計	58	54	△3
資産合計	412,200	374,962	△37,238

	FY24	FY25 2Q	増減
営業未払金	12,441	10,823	△1,617
旅行前受金	36,851	40,509	3,657
社債・転換社債	30,000	5,000	△25,000
借入金	169,095	164,742	△4,352
その他	101,467	87,834	△13,633
負債計	349,857	308,910	△40,946
資本金	100	100	—
資本剰余金	27,645	27,603	△42
利益剰余金	24,226	27,963	3,737
自己株式	△13,015	△13,015	△0
その他の包括利益 累計額	13,011	12,543	△467
新株予約権	282	204	△77
非支配株主持分	10,093	10,652	559
純資産計	62,343	66,052	3,708
負債・純資産合計	412,200	374,962	△37,238

2025年10月期 業績予想と下半期の主な取り組み

通期の連結業績予想に修正なし。
下半期は、第4四半期の業績の比重が高いことと、国際情勢がもたらす不確実性を踏まえて据え置き。

(百万円)

	FY2024	FY2025	YoY
売上高	343,334	390,000	113.6%
営業利益	10,854	12,000	110.6%
経常利益	10,451	11,000	105.3%
当期純利益	8,717	7,700	88.3%
配当（円）	-	20	

業績予想と上半期の実績

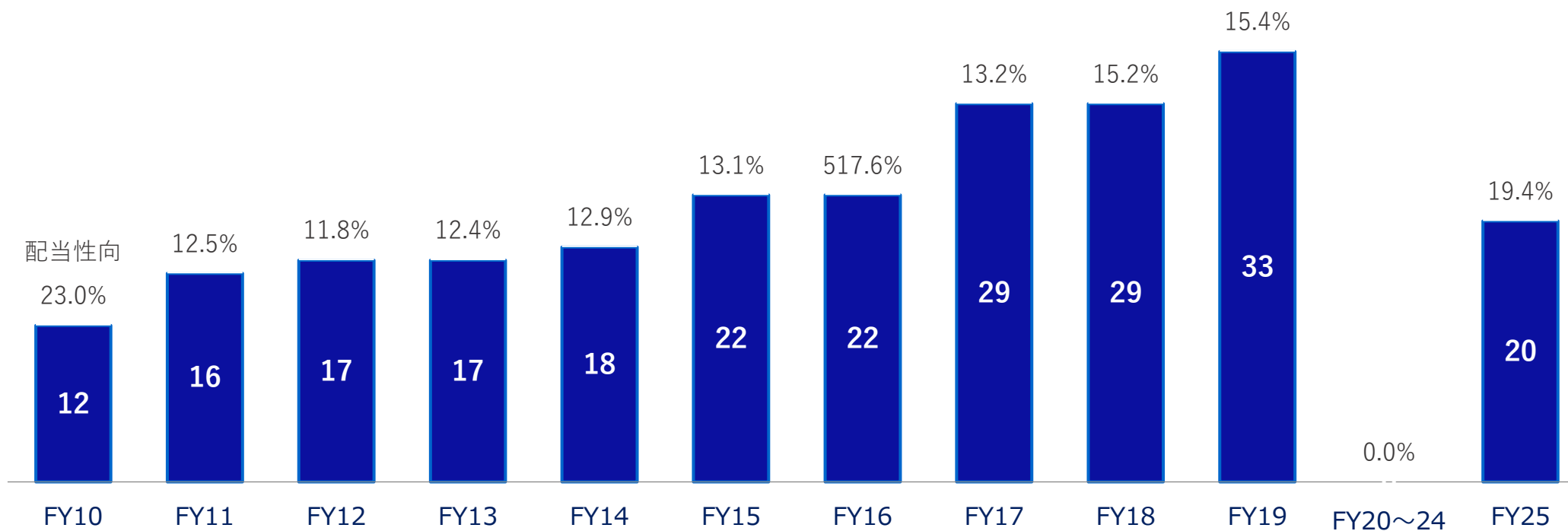


(百万円)	FY24	FY25	YoY	前期差	FY24 H1	FY25 H1	YoY	前期差	FY25 H1 実績	達成率	計画差
売上高	343,334	390,000	113.6%	46,666	160,930	183,000	113.7%	22,070	181,313	99.1%	△1,687
旅行事業	283,972	326,000	114.8%	42,028	131,363	151,500	115.3%	20,137	149,558	98.7%	△1,942
ホテル事業	22,989	27,000	117.4%	4,011	11,468	13,000	113.4%	1,532	12,405	95.4%	△595
九州産交グループ	23,985	24,500	102.1%	515	11,957	12,300	102.9%	343	12,663	103.0%	363
その他	15,853	16,000	100.9%	147	7,620	7,700	101.0%	80	8,814	114.5%	1,114
調整・消去等	△3,467	△3,500	-	△33	△1,479	△1,500	-	△21	△2,128	-	△628
営業利益	10,854	12,000	110.6%	1,146	5,529	6,100	110.3%	571	6,721	110.2%	621
旅行事業	9,302	10,000	107.5%	698	4,714	5,330	113.1%	616	5,607	105.2%	277
ホテル事業	3,047	3,850	126.3%	803	1,771	1,900	107.3%	129	1,920	101.1%	20
九州産交グループ	434	620	142.5%	186	293	460	157.0%	167	508	110.4%	48
その他	219	700	319.6%	481	105	170	161.9%	65	219	128.8%	49
調整・消去等	△2,149	△3,170	-	△1,021	△1,356	△1,760	-	△404	△1,534	-	226
経常利益	10,451	11,000	105.3%	549	5,840	6,100	104.5%	260	6,881	112.8%	781
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,717	7,700	88.3%	△1,017	3,648	4,100	112.4%	452	3,798	92.6%	△302
配当	-	20円			-	10円			10円		

H1 (上半期)

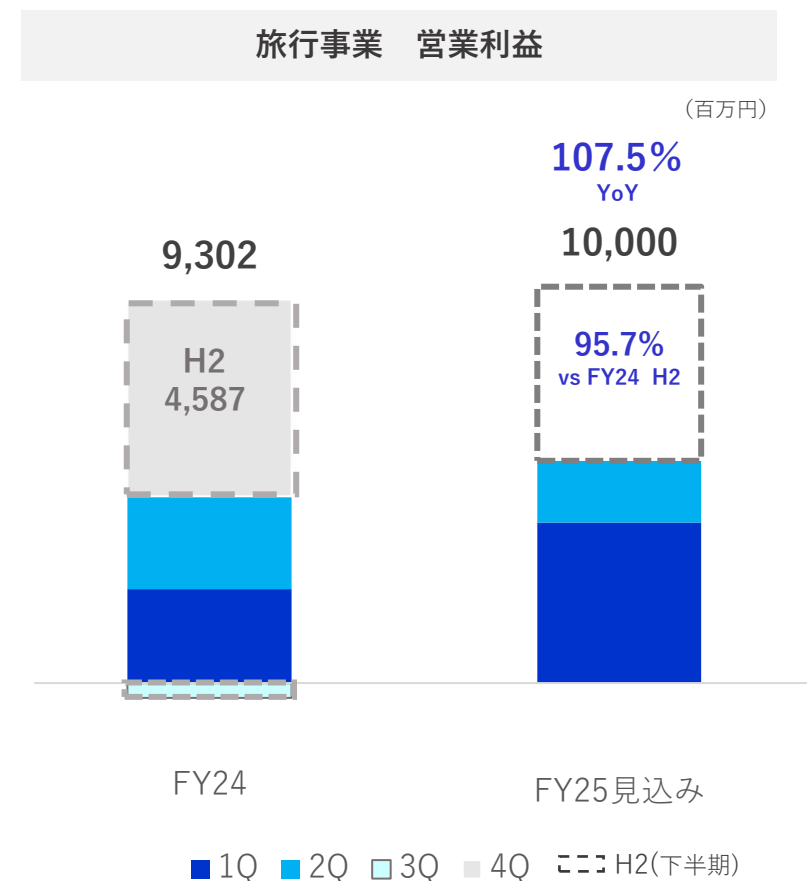
- 「安定的かつ継続的に会社の利益配分」といった株主還元方針に従い、**年間配当は20円を予定（変更無）**。
中間配当は予定通り10円を配当。期末配当は、10円を予想。

一株当たりの配当金（円）推移、配当性向



日本の海外旅行事業で下半期の利益を牽引

海外旅行	更なる需要喚起で夏の集客強化
国内旅行	新たな商品商材による売上増で国内シェアを拡大
訪日旅行	欧州市場におけるシェア拡大と新規事業開拓を推進
海外法人	グローバルマーケットの獲得と更なる業務効率化の促進



更なる需要喚起で夏の集客強化

円高の追い風を捉え、回復の遅いハワイ・ミクロネシアを強化

スーパーサマーセール! ファイナル
SUPER SUMMER SALE! FINAL
2025.6.20(Fri) ~ 7.31(Thu)

早期の需要喚起により5月～7月は順調に推移。
下半期の山場となる8月・9月出発は「夏先取り家族旅行」を皮切りに、「スーパーサマーセール!」を展開。
ハワイ・ミクロネシアの**コアターゲット**なるファミリー層へアプローチが奏功し、堅調な回復へ。

関西地区最大店舗「ヨーロッパ・中近東・アフリカ専門店」をオープン

取扱高を牽引するヨーロッパ・中近東・アフリカ方面の専門店は東京に続き大阪にもオープン。
豊富な渡航歴と専門知識・販売経験をもつスタッフによるコンサルタントで、更なる**関西発のシェア**を開拓。

イノゲート大阪 ヨーロッパ・中近東・アフリカ専門店 イメージ ▶



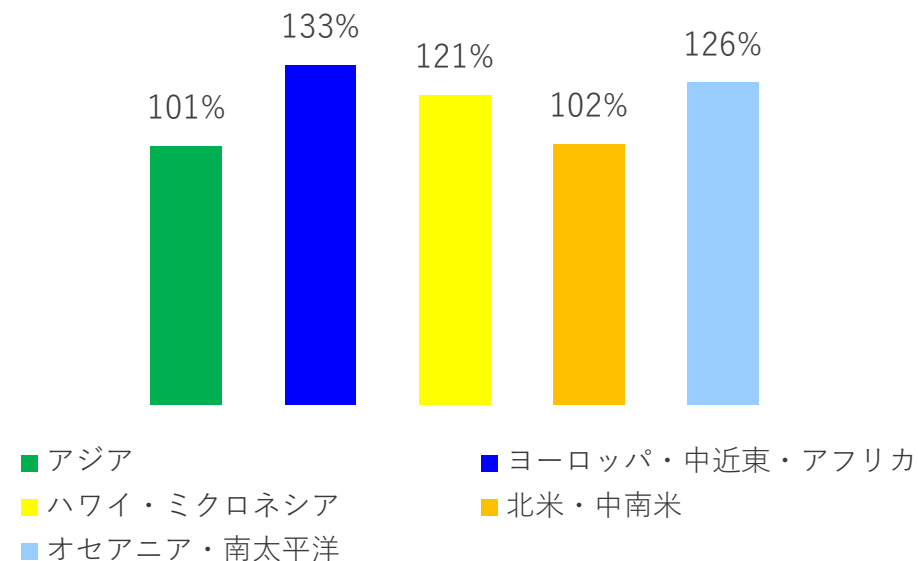
海外旅行取扱高 エリア別 前年同日比

夏(7～9月)の予約動向

左から取扱高の多い順

116%

※6/8 時点の前年同日比 (旧会計基準比較)



新たな旅行商材による売上増で 国内シェアの拡大へ

夏休みにむけて旅ナカ商材を展開

✓ 沖縄

那覇滞在のお客様にもビーチで楽しんでいただけるよう、南部エリアの美々ビーチへのHIS専用シャトルバスを運行。
美々ビーチではHIS専用の休憩スペースもご用意。



▲ 美々ビーチいとまん イメージ

✓ 北海道



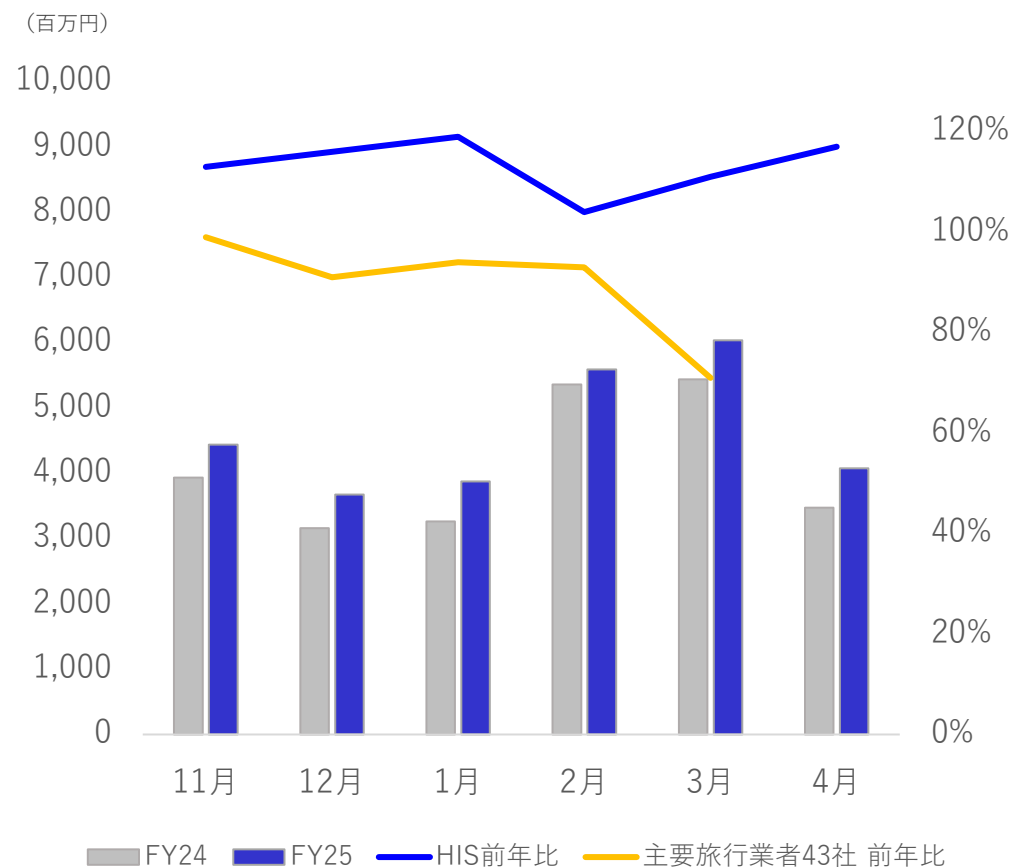
札幌市・近郊&エスコンフィールドHOKKAIDO新規ルートを巡る、北海道HISオリジナル日帰りバスツアーを期間限定で運行。
また、昨年好評であった「エスコンフィールドHOKKAIDOでの親子キャンプ」を開催。

◀ エスコンフィールドHOKKAIDO ©H.N.F.

添乗員同行ツアーの全国発商品の拡充

添乗員付きツアーのラインナップの拡充として、これまで関東発着をメインに商品化していましたが、全国発着のツアー展開を図ります。
花火・祭り・イベントを組み込んだツアーや、チャーター便を活用した離島へのツアーなどを全国で商品展開し、新たな顧客層の獲得に努めます。

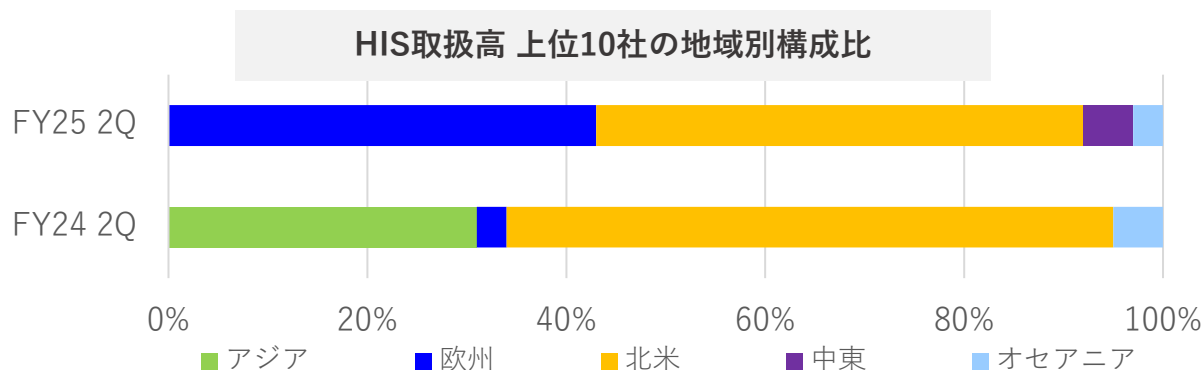
国内旅行 取扱高（旧会計基準）



欧州市場におけるシェア拡大と新規市場開拓を推進

更なる欧州市場におけるシェア拡大と新規市場開拓

✓ 長期滞在かつ高単価である欧米からの取扱が拡大



✓ 欧米拡大の主な要因

↳ 北米からの団体旅行が好調に推移

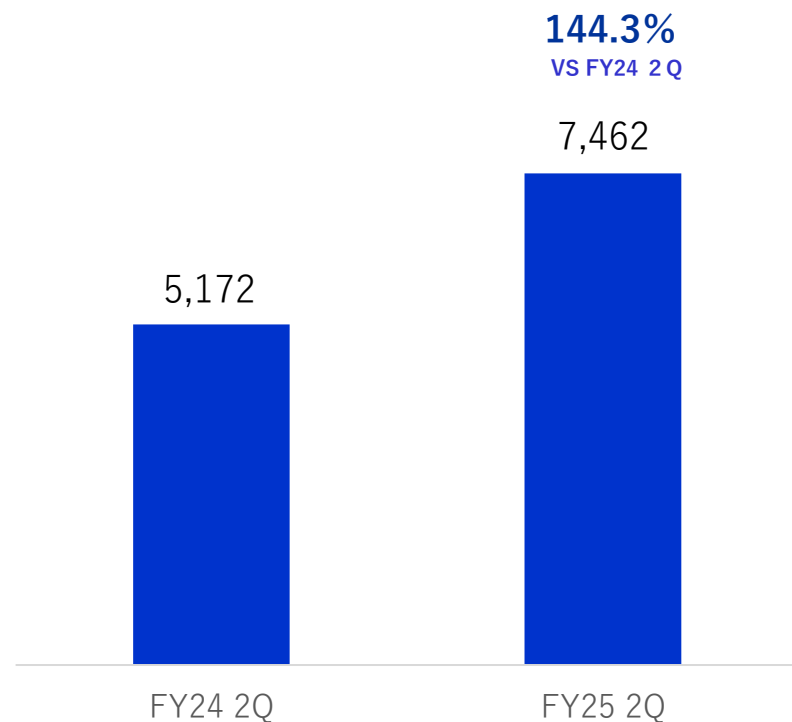
↳ 連結子会社のMIKIグループとの連携強化により、欧州市場からの受客が大幅増

✓ 下期取り組み

HISのグローバルネットワークの更なる活用により、海外支店や現地旅行会社へのB2B営業を強化し、グループシナジーの最大化に努めていく。

訪日旅行事業 取扱高 (旧会計基準)

(百万円)



※ 2Q : HIS 11月～4月・JPH 10月～3月

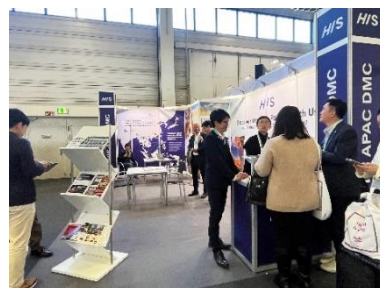
グローバルマーケットの獲得と更なる業務効率化の促進

グローバルマーケット獲得の推進

✓ グローバルマーケット向けの自社商材開発と流通促進

グローバルマーケット向けの**自社商材開発を加速させるため、BtoBの営業強化**を図り、HISグローバルネットワークを活用することで流通を促進させる。

世界最大級の観光業界イベント「ITBベルリン」をはじめドバイ、ロンドンなど世界各地で開催される旅行博へ出展することで、**新規顧客の獲得や既存顧客との関係強化**に繋げ、ビジネスチャンスの拡大を目指す。



(「ITBベルリン2025」HIS出展ブース ▶)

✓ 新規デスティネーション開拓 (サウジアラビア、ペルー)



サウジアラビア

2大聖地メッカとメディナの玄関口としても知られるサウジアラビア第2の都市・ジェッダに**日本の旅行会社として初進出**

(◀サウジアラビア ジェッダ イメージ)

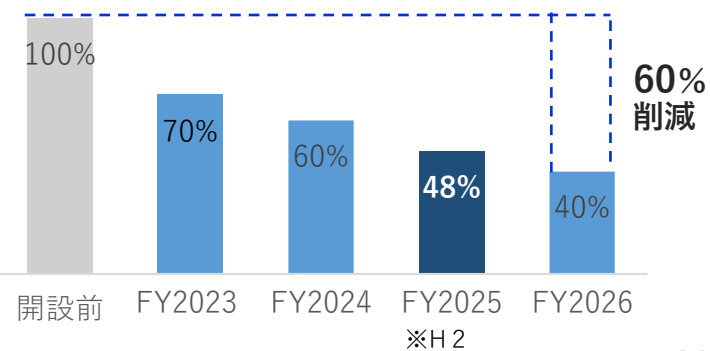
業務のセントラライズによる効率化促進

✓ オーストラリア、インドネシアなどの手配業務をマニラSSCに移管

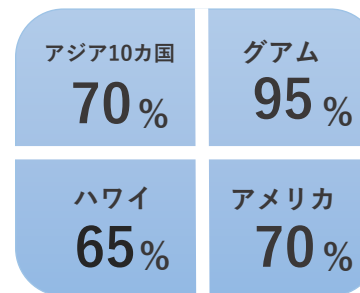
現在、海外法人20拠点、HIS本社6部署、グループ企業1社がSSCに業務を移管しており、**下半期には新規でオーストラリア、インドネシアの手配業務を移管へ**。世界共通でマニュアル化・システム化を進めることで、一層の作業効率、手配業務の削減に繋がり、**各エリアで収益性の向上に貢献するとともに、HISの旅行商材をグローバルに展開する基盤づくりを目指す**。

SSC (シェアードサービスセンター) とは、各国の旅行事業における手配業務などを集約・移管するため、HISの旅行商材をグローバルに展開する基盤づくりを目的として、マニラに開設

海外における予約手配業務量 推移



インバウンドオペレーション 移管目標 (FY2026)



下半期の主な取り組み ホテル事業

国内ホテル

✓二つのリブランドを実施し、イールドマネジメントを強化



変なホテル 最上位ブランド「プレミア」を全国展開

昨年リブランドオープンした「変なホテルプレミア京都 五条烏丸」に続き、今夏に6軒のリブランドを拡充。通常の变なホテルより高品質なアメニティや先進的な設備を採用し、国内外からの新たな集客向上へ

(◀ 変なホテル 浅草田原町 スイートルーム・イメージ)



✓「ウォーターマークホテル沖縄」リブランドで価値向上を推進

沖縄の久米島と宮古島で展開する2軒のホテルブランドを統一。久米島では、エントランス、ロビー、フロント、全客室のフルリノベーションを実施し、リラクゼーションサロンを新設するなど、心地よい空間の提供を開始

(◀ ウォーターマークホテル沖縄 久米アイランド KUMEスイートルーム・イメージ)

海外ホテル

✓リゾート地における体験型コンテンツの強化を通じて、回復を加速

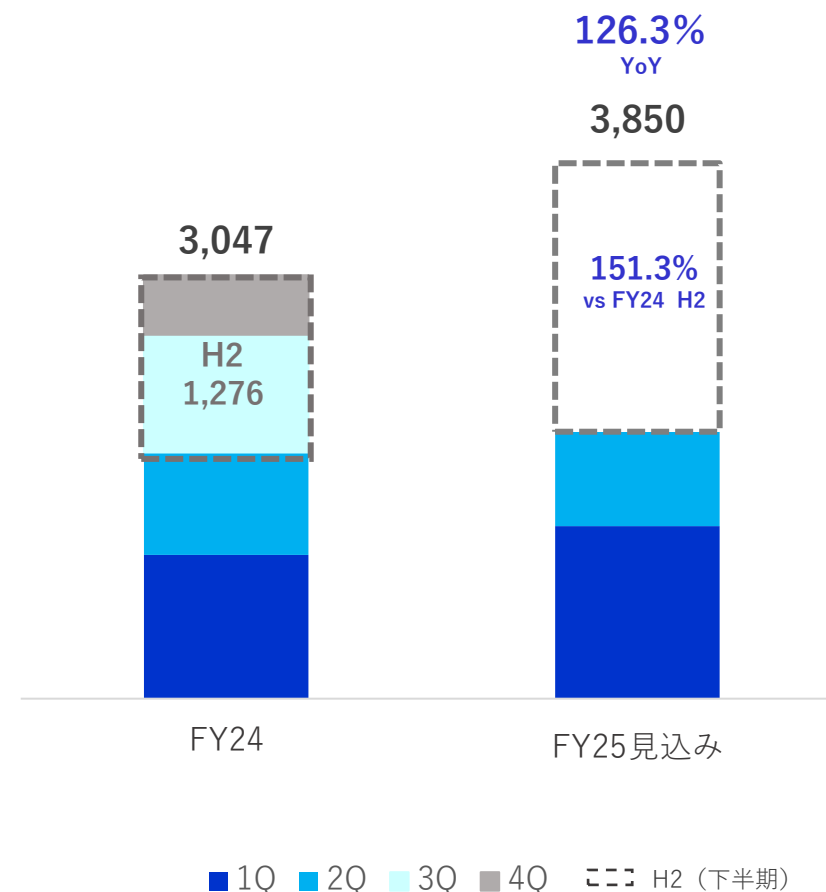


レジャー市場の再開が徐々に見え始めたグアムと観光需要が急回復を遂げているバリ島において、観光地へのシャトルバスの展開や館内バーベキューなど、宿泊のみならず滞在期間中の体験型コンテンツを強化し、各種施策を講じることで、顧客満足の向上とシェアの獲得を目指す

(◀ ウォーターマーク ホテル&スパバリ ジンパラン 外観・イメージ)

ホテル事業 営業利益

(百万円)



下半期の主な取り組み 九州産交グループ

今夏、2つのアニメと復興イベントを開催

- ✓ 「ONE PIECE」麦わらの一味像 ひとつなぎバスツアーの運行
復興を続ける熊本の今を体感できる、熊本地震復興応援ツアーを実施
- ✓ 「夏目友人帳」とコラボした人吉・球磨の地域応援プロジェクト始動
豪雨災害の被害を受けた人吉・球磨地方の魅力を発信



バス事業：貸切バスで全国へ熊本各地のPR

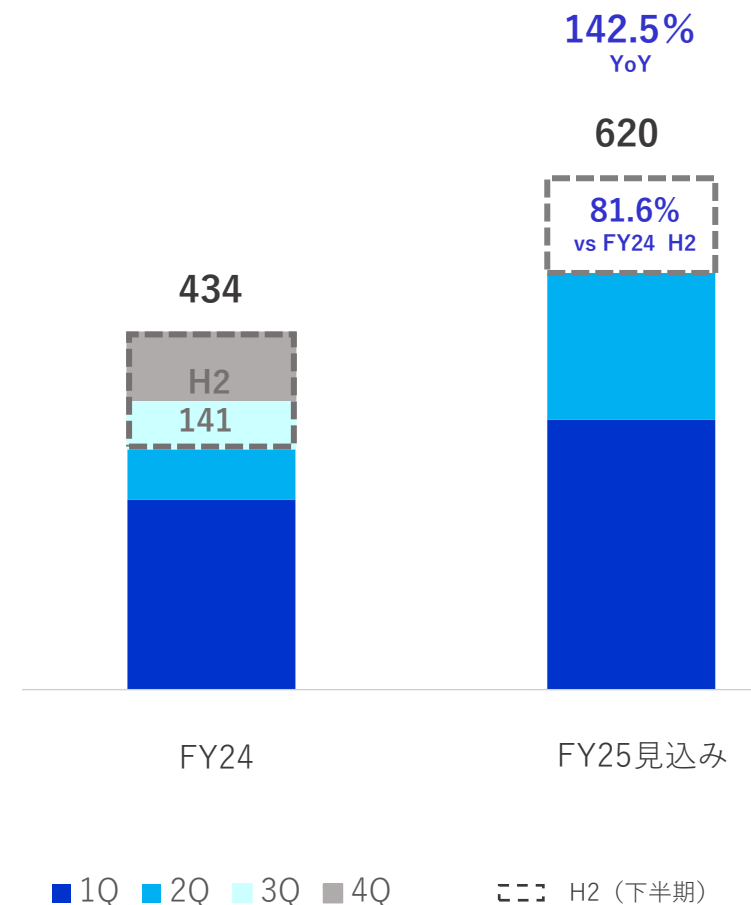
✓ 第2弾 くまモンラッピングバスを追加運行

昨年に続き第2弾として、熊本県 5 地域の人気観光地や地域の文化等を表現したくまモンラッピングのデザインを施した貸切バスのラインナップを拡充



九州産交グループ 営業利益

(百万円)





補足資料

[補足資料] 会計基準に関する定義

2022年10月期第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用開始。
航空券やホテルといった旅行商材のみを提供する「手配旅行」においては、粗利額が売上として、手配完了日に計上されます。

■ 旅行事業における主な変更点（再掲）

	①売上高の計上金額		②計上のタイミング	
	旧基準	新基準	旧基準	新基準
ツアー(企画旅行)	総額	「本人取引」 ＝総額（※1）	出発日	進行日 （※2）
航空券（手配旅行）	総額	「代理人取引」 ＝純額	出発日	手配完了日（※3）

※1. 燃油サーチャージ、空港使用料などは第三者のための回収にあたるため除く。

※2. 旅行期間にわたり、日割りで収益を認識。

※3. お客様との契約上、「手配が完了した時点＝手配完了日」が当社のサービス提供完了時。

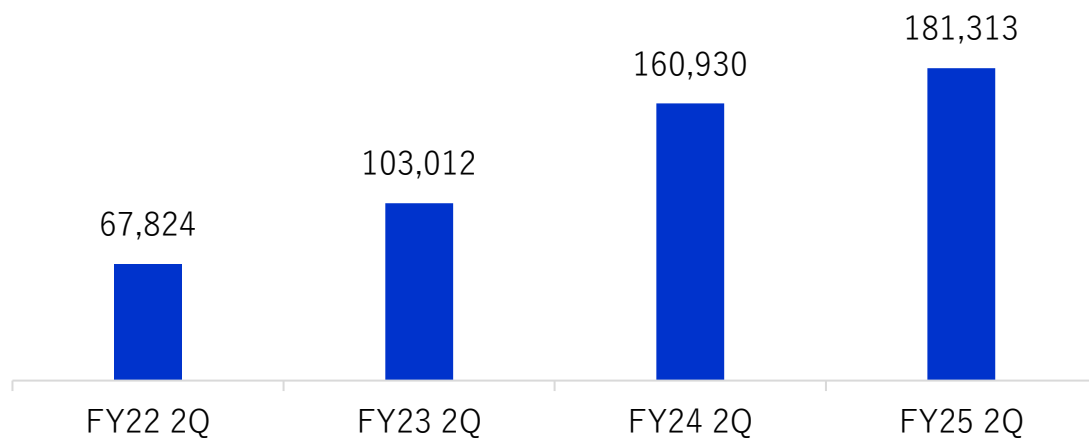
※4. インセンティブについては、手配旅行は「手配売上」、企画旅行は「仕入割戻」とする。

※5. 旅行以外の取引に関しても基本的な考え方は「本人取引」か「代理人取引」かで、区別する。
原則は全ての取引（旅行以外）が新基準の適用範囲ではあるが、重要性の観点より適用外。

[補足資料] 第2四半期 連結業績推移 (新会計基準)

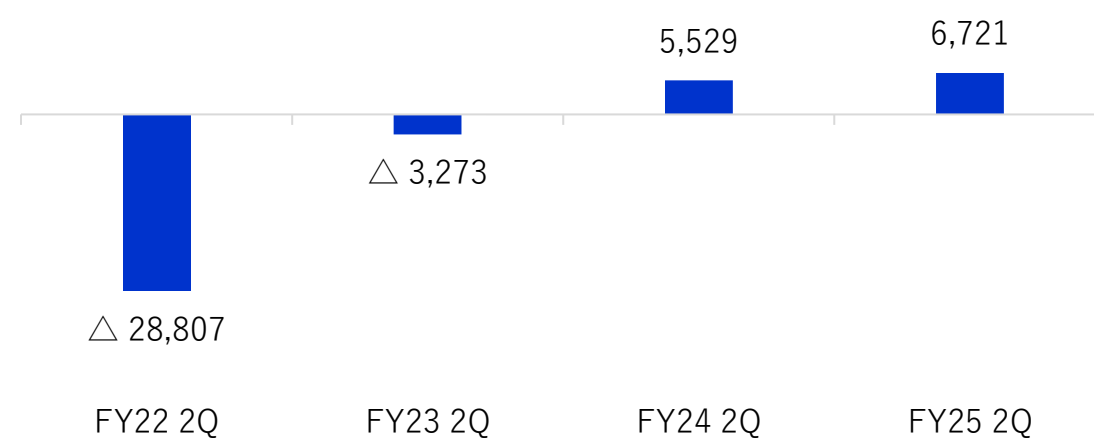
HIS

売上高

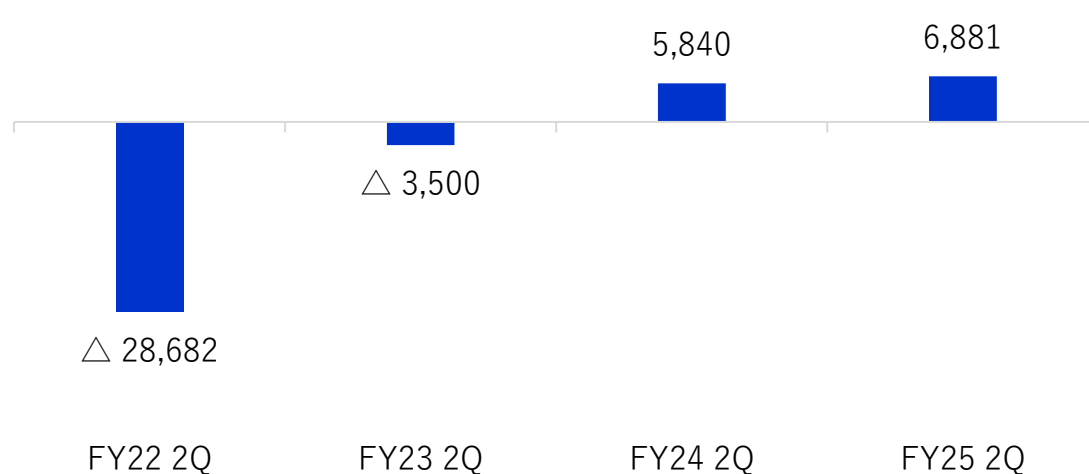


営業利益

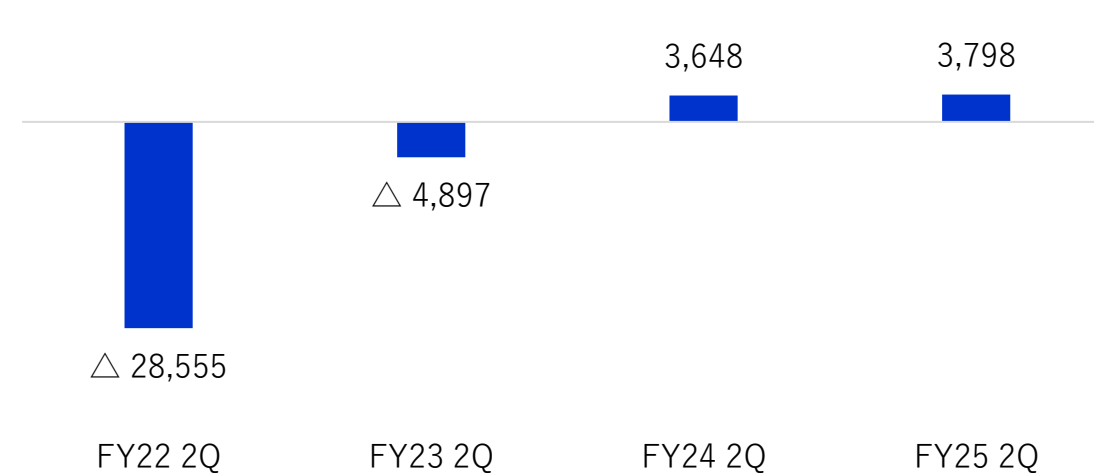
(百万円)



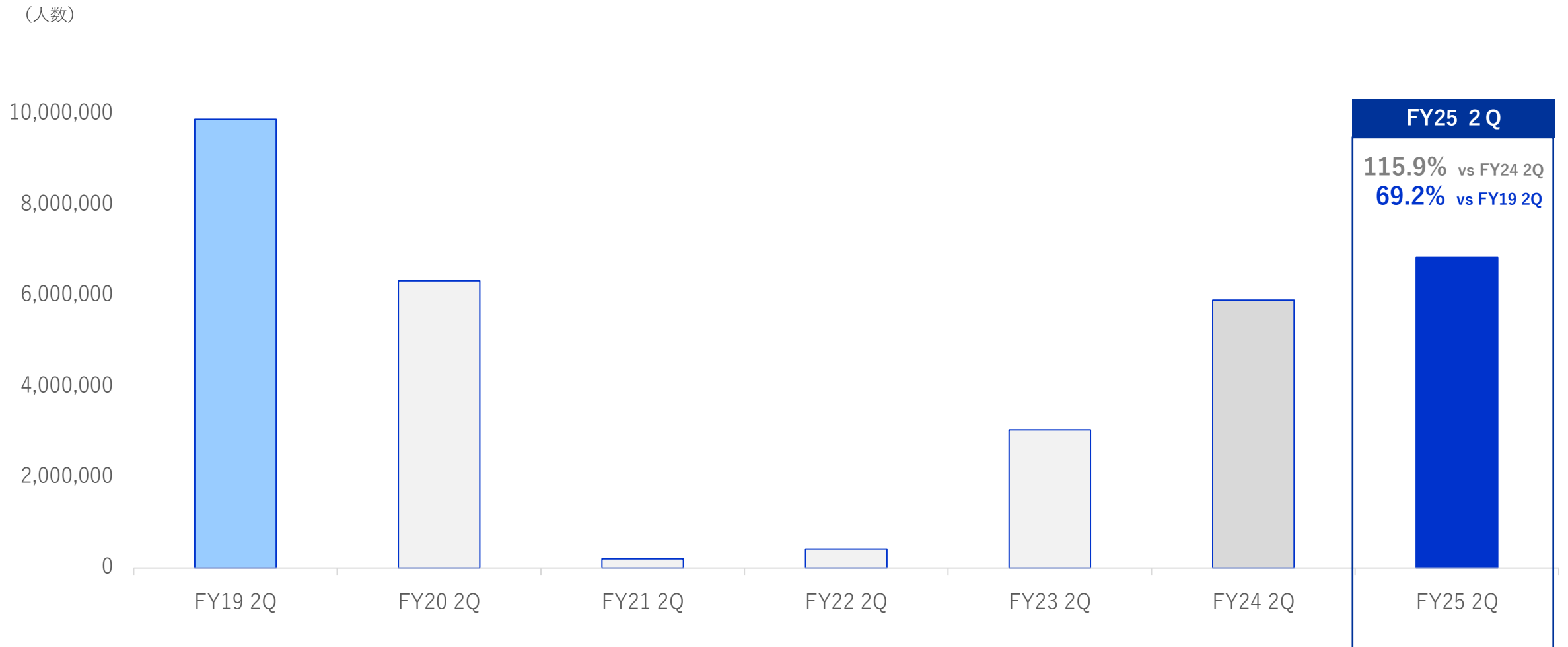
経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



[補足資料] 旅行市場概況 出国日本人数 推移 (6ヶ月比較)



出典：日本政府観光局（訪日外客数統計）11月～4月 6ヶ月累計比較

[補足資料] 旅行事業 サブセグメント状況（旧会計基準・参考値）



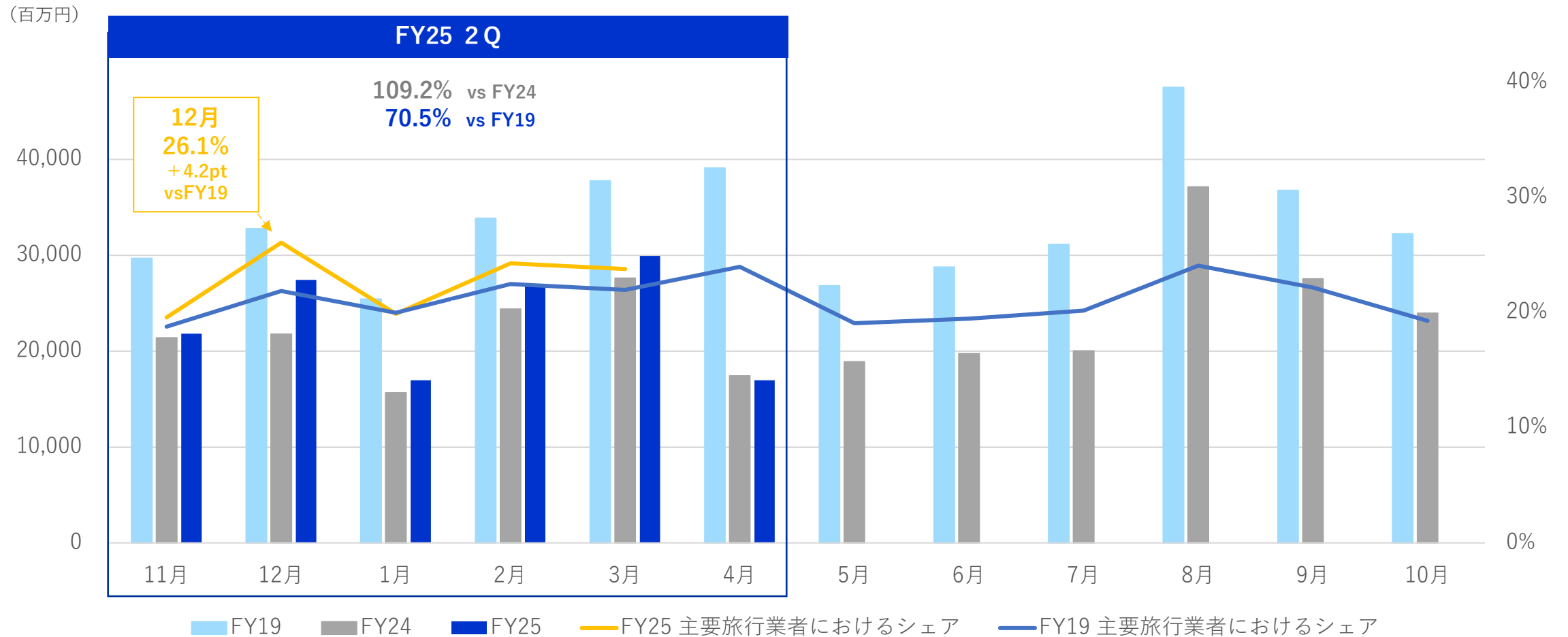
(百万円)	FY19 (旧会計基準)					FY24 (旧会計基準)					FY25 (旧会計基準)				
	1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
海外旅行取扱高	87,899	110,754	86,748	116,545	401,948	58,844	69,451	58,680	88,650	275,627	66,234	73,810			
YoY	106%	114%	98%	97%	103%	233%	155%	114%	109%	136%	112%	106%			
内、燃油サーチャージ	6,030	8,005	4,308	6,957	25,302	6,584	9,045	6,902	10,345	32,877	7,189	7,235			
国内旅行取扱高	11,941	18,154	13,693	18,044	61,833	10,357	14,276	12,556	17,802	54,992	11,988	15,707			
YoY	101%	106%	99%	99%	101%	77%	86%	91%	110%	91%	115%	110%			
訪日旅行取扱高	7,116	8,075	8,375	6,464	30,032	2,247	3,405	3,171	3,841	12,666	3,194	5,022			
YoY	119%	105%	88%	87%	96%	219%	147%	140%	134%	149%	142%	147%			

※エイチ・アイ・エス及び同グループ5社（オリオンツアー、クオリタ、クルーズプラネット、ジャパンホリデートラベル、エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した取扱高合計。

(百万円)	FY19 (旧会計基準)					FY24 (参考値*)					FY25 (参考値*)				
	1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
海外法人インバウンド 取扱高	54,059	34,389	40,965	51,247	180,663	40,035	24,778	29,865	41,956	136,636	52,010	30,154			
YoY	122%	104%	107%	99%	108%	220%	205%	168%	131%	170%	129%	121%			
海外法人アウトバウンド 取扱高	17,860	18,761	38,857	39,868	115,347	44,515	48,181	49,214	37,525	179,436	39,268	41,386			
YoY	95%	93%	183%	203%	144%	122%	102%	98%	96%	104%	88%	86%			

※FY23以降、取扱高の計上基準をツアー商品（本人取引）は「進行日」、手配旅行（代理人取引）は「手配完了日」とした参考値となっております。
※海外における旅行事業は、7月期決算の為、FY25 2Qは、2024年8月～2025年1月の取扱高（参考値）を記載しており、CCEL（語学学校）などの非旅行事業の取扱高を除いております。
※エイチ・アイ・エスとエイチ・アイ・エス海外法人35社・海外子会社4ブランドの社内取引相殺前の取扱高となります。

[補足資料] 海外旅行取扱高推移（旧会計基準）



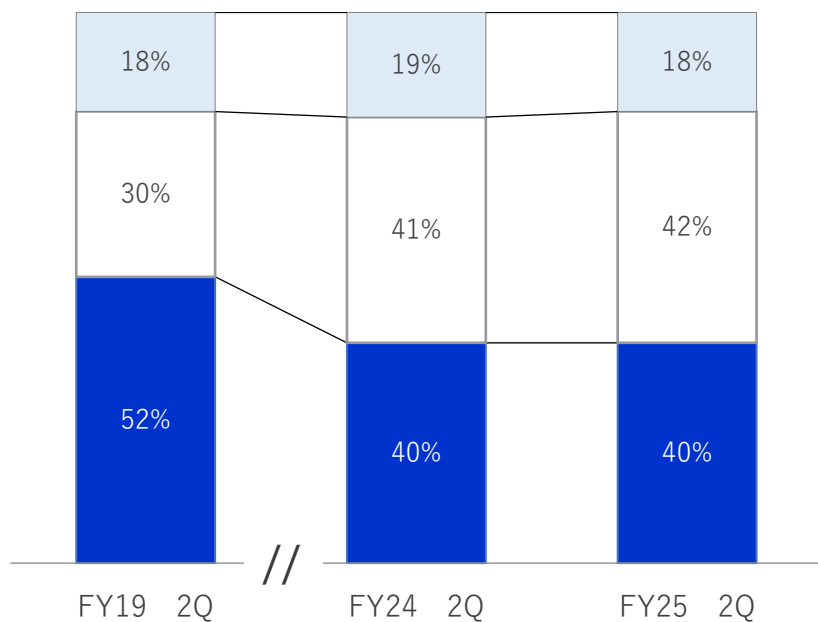
出典 観光庁（旅行業者取扱高）

※エイチ・アイ・エス及び同グループ5社（オリオンツアー、クオリタ、クルーズプラネット、ジャパンホリデートラベル、エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した取扱高合計

[補足資料] 海外旅行構成比（旧会計基準）

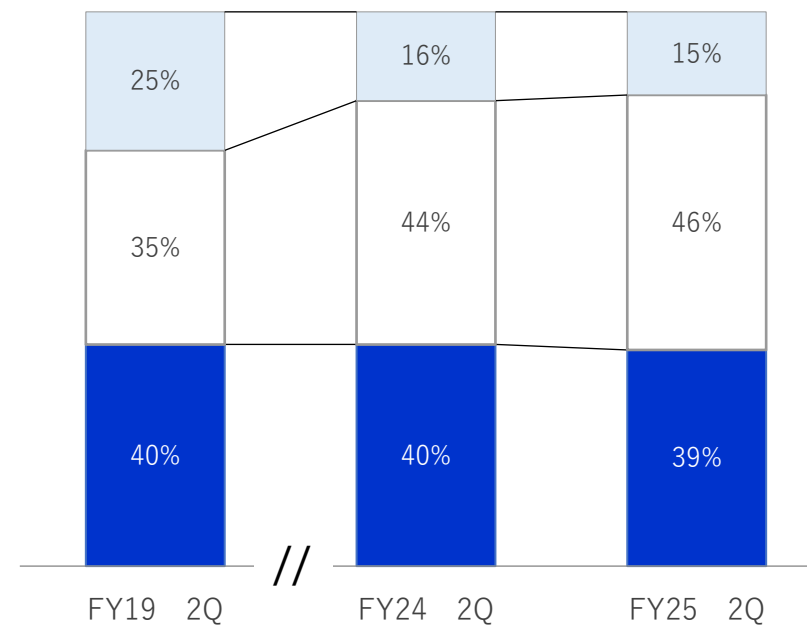
海外旅行チャネル別 売上高

■ 店舗 □ インターネット □ コーポレート



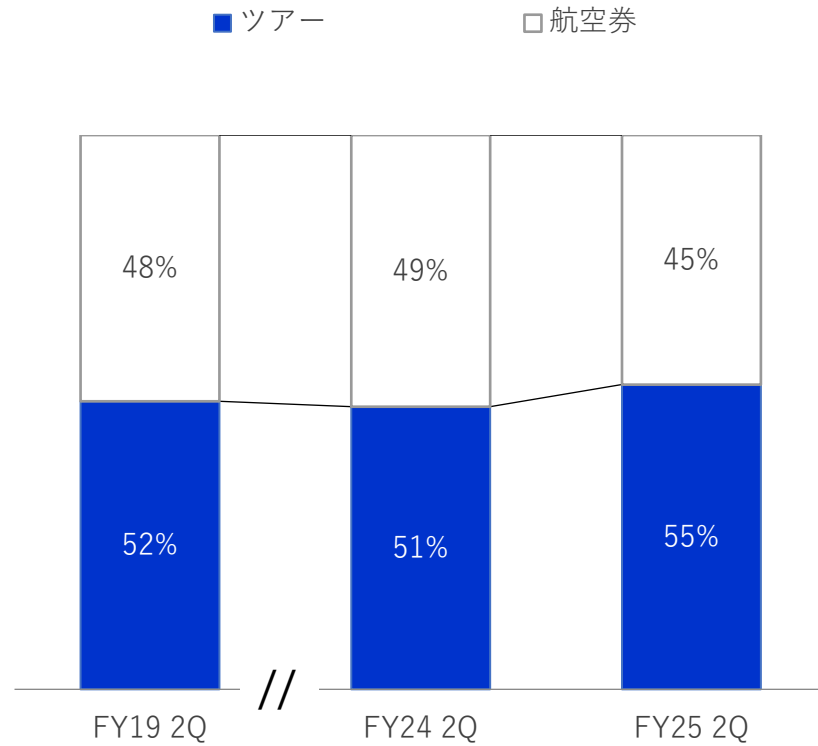
海外旅行方面別 売上高

■ アジア □ 欧米豪 □ ハワイ・ミクロネシア

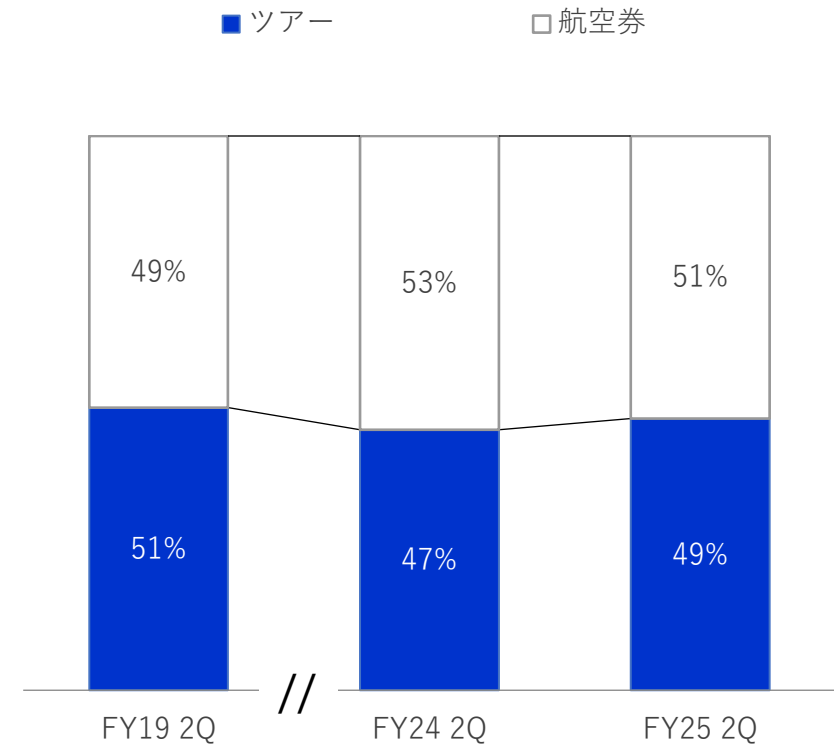


[補足資料] 海外旅行構成比（旧会計基準）

海外旅行商品種別 売上高

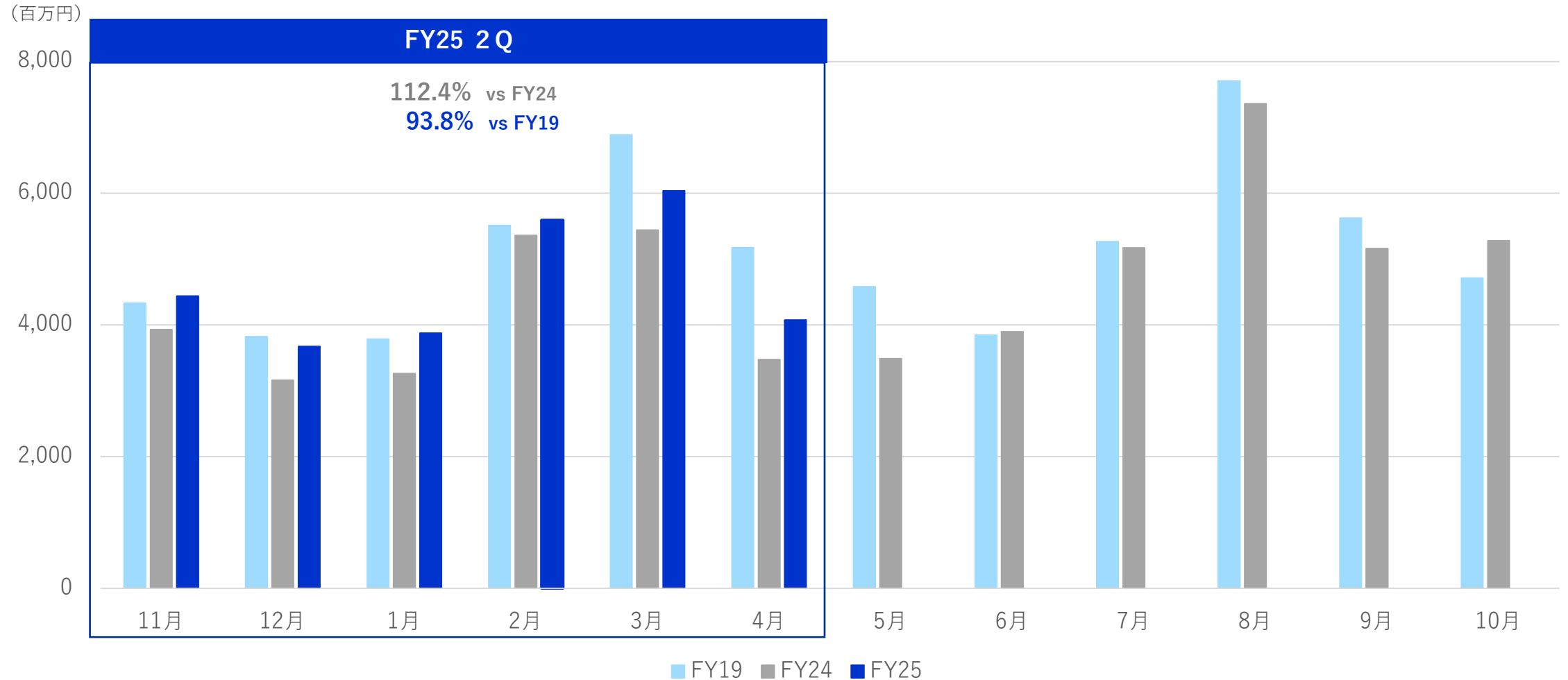


海外旅行商品種別 送客数



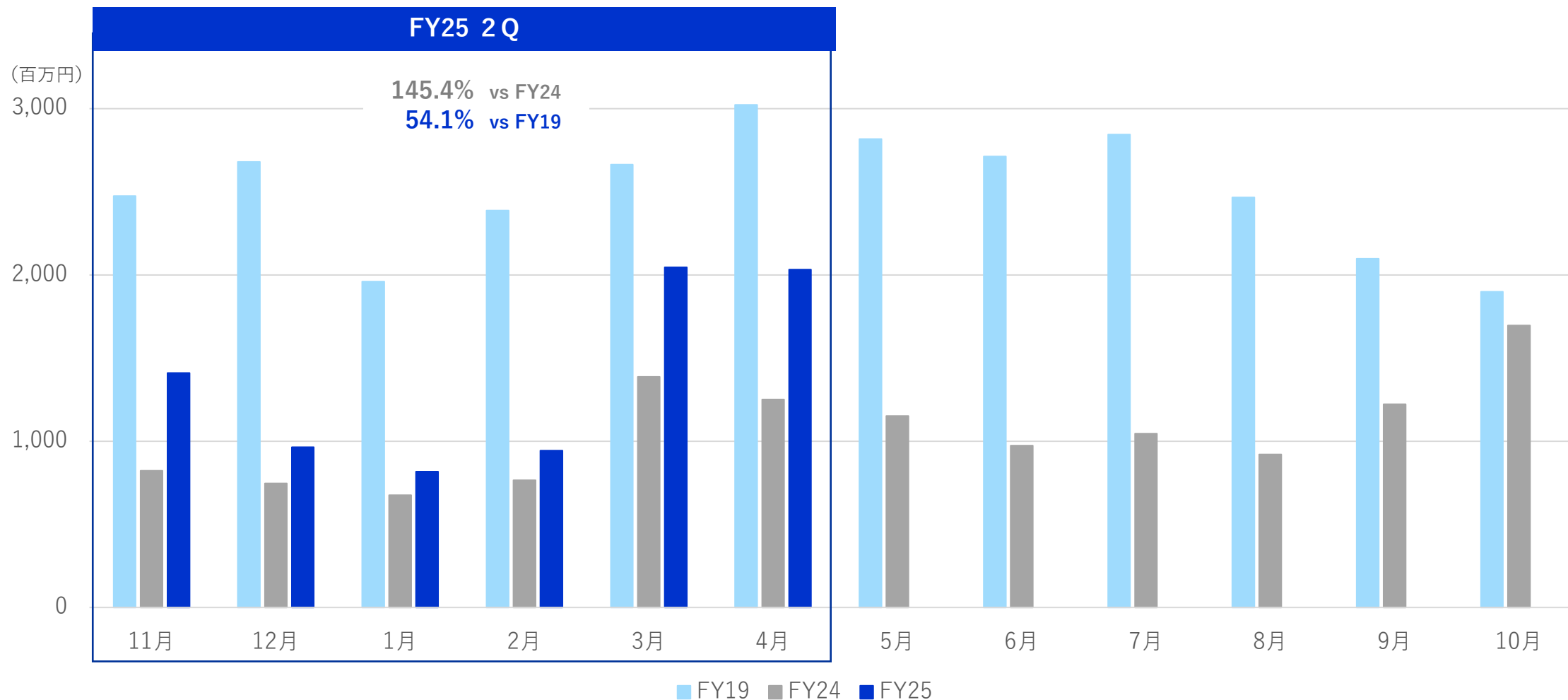
※ツアー：募集型エアー＋ホテル含む

[補足資料] 国内旅行取扱高推移（旧会計基準）



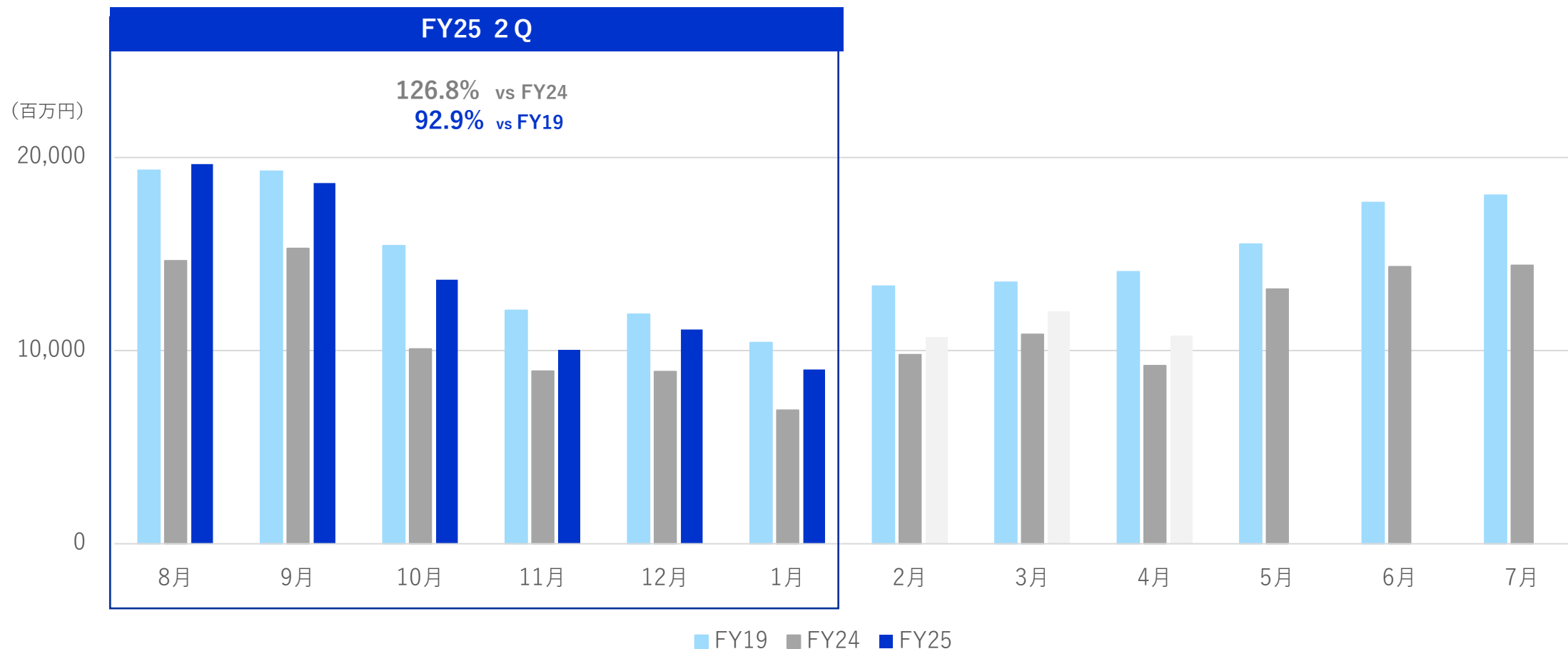
※エイチ・アイ・エス及び同グループ5社（オリオンツアー、クオリタ、クルーズプラネット、ジャパンホリデートラベル、エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した取扱高合計

[補足資料] 訪日旅行取扱高推移（旧会計基準）



※エイチ・アイ・エス及び同グループ5社（オリオンツアー、クオリタ、クルーズプラネット、ジャパンホリデートラベル、エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した取扱高合計

[補足資料] 海外におけるインバウンド取扱高推移（旧会計基準・参考値）

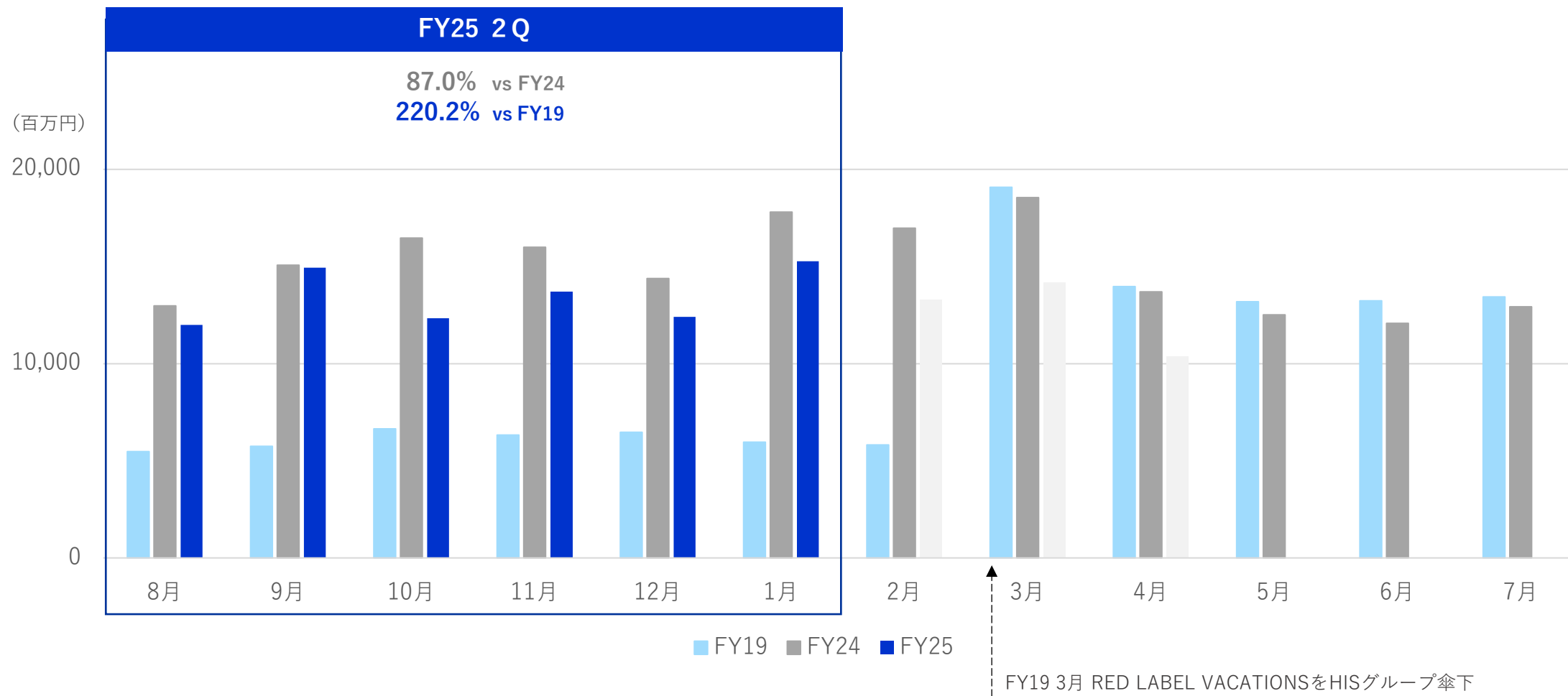


※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。

※エイチ・アイ・エス海外現地法人32社と海外子会社4ブランド（MIKIグループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS）の社内取引相殺前の取扱高となります。

なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

[補足資料] 海外におけるアウトバウンド取扱高推移（旧会計基準・参考値）

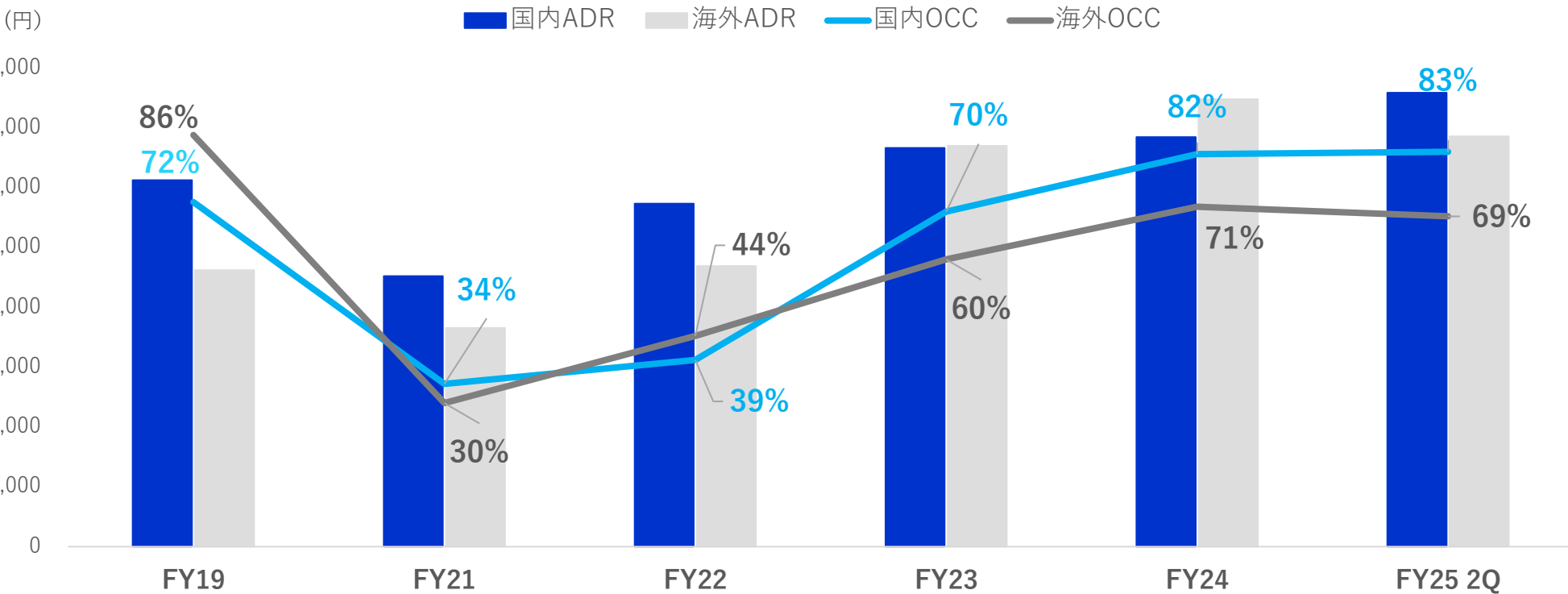


※海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

※エイチ・アイ・エス海外現地法人32社と海外子会社4ブランド（MIKIグループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS）の社内取引相殺前の取扱高となります。

なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

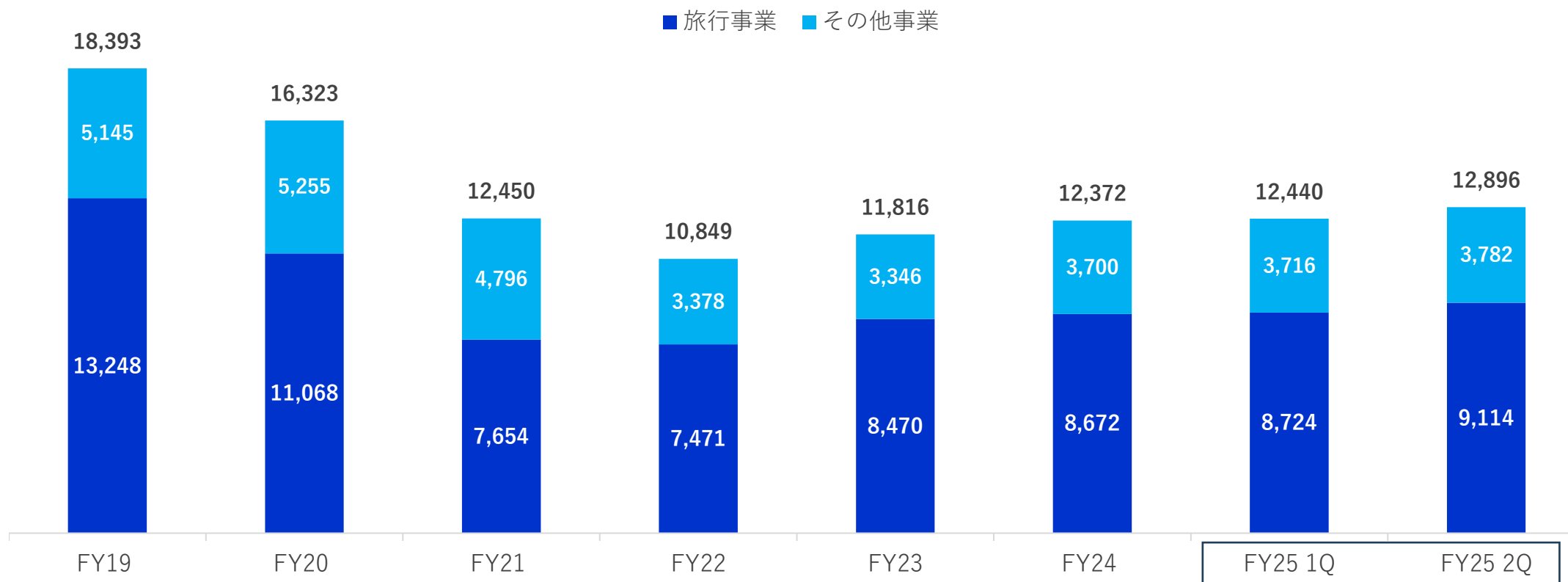
[補足資料] ホテル事業 国内と海外のADR・OCC推移



軒数	国内	12	21	22	24	24	24
	海外	15	15	18	18	18	19 (※)
	計	27	36	40	42	42	43
部屋数	国内	1,479	2,594	2,644	2,844	2,844	2,840
	海外	1,870	1,870	2,062	2,202	2,202	2,501
	計	3,349	4,464	4,706	5,046	5,046	5,341

※トルコ以外の他社運営ホテルを除く

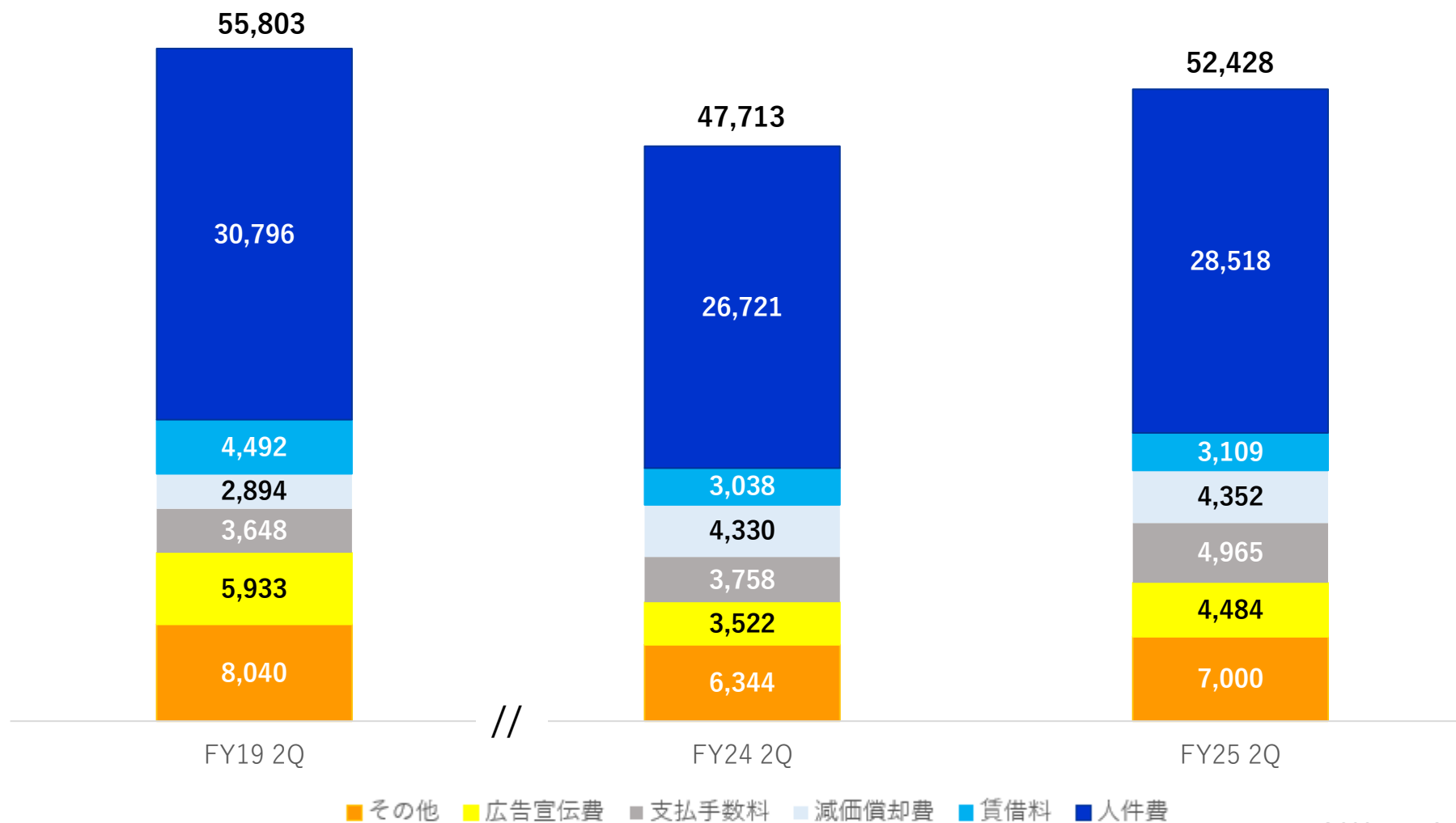
グループ従業員数



[補足資料] 販管費推移

HIS

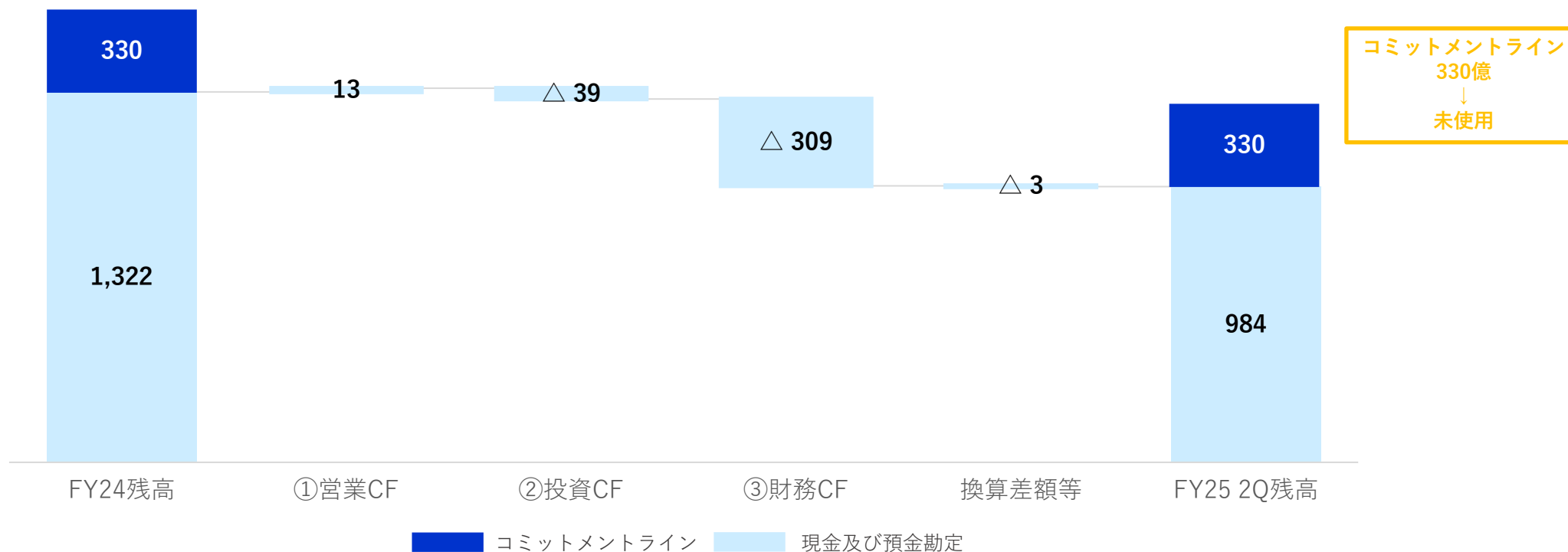
(百万円)



[補足資料] 手元流動性

HIS

(億円)



①営業CF

税引前当期純利益	65
減価償却費	54
旅行前受金の増加	39
売上債権及び契約資産の減少	16
預り金含むその他の負債減少	△131
旅行前払金の増加	△21
仕入債務の減少	△12

②投資CF

定期預金の払戻による収入	55
定期預金の預入による支出	△ 57
固定資産の取得による支出	△ 36

③財務CF

借入れによる収入	635
借入金の返済による支出	△ 678
社債償還による支出	△ 250

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

本資料には、当社の将来の営業活動、業績の見通し等の将来予測に関する記述が含まれています。かかる将来予測に関する記述は作成段階において入手可能な情報を基に当社経営陣が判断したものであり、様々なリスク要因や不確実性を持ちます。実際の営業成績や財務状態は、これらの将来予測において示唆されたものとは、著しく異なる可能性があります。従って、これらの将来予測に関する記述を過度に信頼することのないようご留意下さい。また、当社は新しい情報、将来の事象又は新たな知見に応じて将来予測を変更する責任を負うものではありません。



本資料に関するお問い合わせは、弊社IR室までご連絡ください。